



## Contents

- ・【巻頭エッセー】心の裡に築くもの…花岡千春 ●表紙
- ・Welcome to our Library ●2～3
- ・【卒論報告】デジタルネットワーク時代の新しい音楽市場戦略と聴取行動の変化…下森也実 ●4～5
- ・館長室へようこそ ㊸…古川聡 / 雑誌の部屋 ㊹ ●6
- ・2017年度ばるらんど総目次 ●7
- ・Information ●8

# Parlando

## ばるらんど

「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 298

### 【巻頭エッセー】心の裡に築くもの

花岡 千春

ただか数十年ほどの人間の一生など、本当にはかないものかもしれません。それなのに、時間が限られていることは棚上げにし、ひとは日々のことをやり過ごすだけで、人生の大半の時間を使ってしまいがちです。恥ずかしながら、まさに僕もそんな人間の一人です。

もっとも、生まれた瞬間から、私たちの命がひたすら終焉の時に向かっているにせよ、無常を嘆くことばかりが人生の意味でないことくらいは、私たちもよくわかっています。

結局、私たちは自らの人生を豊かにしたいと思いつつ、うつし世を漂っています。物質的な面での幸せの希求が第一かもしれませんが、どこい精神的な充実を願う気持ちだって持っています。自分の裡に、より多くの知を蓄えようという衝動はその一つでしょうが、これは一体何なのでしょう？死んでしまったら「チャラ」になる自らの裡に、様々な知識や感動を蓄えていく行為。それは限りなく非合理で非生産的ですが、ひとに与えられた本当に貴い資質なのかもしれません。

今という時代は、情報の豊かな時代です。かつて僕らが知り得たことなど優に越える、様々な情報が日々発信されています。たとえば、優れた研究や校訂による最新の楽譜が、次々に出版されています。誤植だらけのラヴェルの楽譜を前にして途方に暮れた日々を思い返すと、まさに隔世の感。幸せな時代になったと思います。もっとも、新しい情報をもれなくフォローするのも大変なことです…。

しかし、ここで僕の申し上げたい知とは、自分の研究に関わることや日々有用なもの、ひとにひけらかす代物、などでは

ない、自らの心の中に築く自分だけの知の財産や、感動の記憶のことです。それは誰のためのものでもありません。自分のためだけの密かな、しかし確かな、「心の図書館」とでもいうもの。そこに並ぶ本や体験の記憶に嘘があっては悲しい。見栄や体裁も時にはあったかもしれないけれど、年齢を重ねるほどに、そこには確かな志が見えてくるはず。この「心の図書館」とは、そのひとを映す鏡のようなものかもしれません。

もう鬼籍に入られた偉大な先達の巨大な「心の図書館」を、僕らは目の当たりにして来ましたが、考えられないほどご多忙の日々の筈なのに、間断なく展覧会や芝居に出かけられ、本を読み、折に触れてそれらの情報を真夜中にファックスして下さった畑中良輔先生。先生のお蔭で、僕は田中一村を知り、晩年の歌右衛門を観、P.ツェランを読みました。先生の作曲家との関わりは山田耕筰や信時潔に、文学者との交友も中河与一、川端康成、堀辰雄に遡るもので、その巨人の如き知識と経験は、90歳を越えても一層しなやかな感性に、結実していたように思います。

もとよりそんな偉大な例とはわけが違いますが、僕も密かに読書が続け、様々な舞台や絵画に触れ、心の裡に何かを蓄えていくことが出来れば、と願っていますが、さてさて…。

最近読んでいるのは、トーマス・マンの日記。実は別に存在した日記は、作家本人によって、生前焼却されていますが、それを割り引いても興味深い。直前に角田房子の本間雅晴中将と今村均大将の伝記も再読。いろいろ考えたばかりです。 ●はなおか ちはる 本学教授(ピアノ)

# Welcome to our Library!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！晴れて音大生になり、これからはじまる4年間に期待と不安でいっぱいなのではないでしょうか？新しい生活の中でほっと一息つきたい時、ぜひ図書館に来てください。皆さんがより充実した大学生活を送れるように、授業以外の時間も広くサポートしていきます。わからないことがあれば気軽に声をかけてくださいね！



## 図書館のキホン！ なにがある？

### 図書館に入るには？

必ず学生証が必要です。忘れると図書館に入れませんので、ご注意ください。

### 資料を探すには？

OPACで検索します。OPACは図書館の蔵書を検索するシステムです。たくさん使ってマスターしてください。特に楽譜は検索するコツがいります。

### 資料を借りるには？

フロアにある資料はカウンターで貸出手续をしてください。書庫にある資料はOPACから「出庫指示」をしてカウンターで受け取ってください。

### 資料が見つからない！

近くの図書館スタッフに声をかけてください。

## こんなことができます！

### ILL(図書館間相互貸借)

当館にない本も、他の図書館から取り寄せて借りることができます。カウンターで手続きします。

### TAC(多摩アカデミックコンソーシアム)

国立音楽大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京外国語大学、東京経済大学と武蔵野美術大学の6校が加盟する大学協力機構です。加盟大学の図書館を自由に利用できます。こちらもカウンターで手続きできます。

### 豊富な音楽資料

当館は音楽と大学の授業に特化した日本有数の音楽図書館。楽譜だけで約14万点所蔵しています。

図書が約14万点、雑誌約2,600タイトルのほかに、CD約7万点、DVD約5,000点、ブルーレイ、レーザーディスクなど、AV資料も充実しています。「閉架式」といって、資料のほとんどが書庫の中に入っています。



### 特別資料コレクション

当館はベートーヴェンの楽譜コレクションなど、特別資料も充実しています。ベートーヴェンが生きていた19世紀に出版された楽譜が約1,300点あります。他にも、江戸後期から明治初期にかけての邦楽と演劇の歴史において大変重要な竹内道敬文庫などがあります。

### オンラインデータベース・音楽配信サービス

図書館が契約している国内外のさまざまなデータベースや配信サービスを使うことができます。ログインすれば自宅からも利用できます。こちらもカウンターで手続きできます。

## 1 2F ライブラリーホール

オープンな雰囲気グループ学習や打ち合わせができます。小聲のおしゃべり、蓋付きの飲み物がOKです。

### 雑誌

音楽関係の雑誌はもちろん、一般の雑誌もあります。

### 新着図書・楽譜

新しく入った図書や楽譜を展示しています。カウンターで手続きすれば借りることができます。

### 音楽小説、音楽マンガ、絵本

『羊と鋼の森』、『のだめカンタービレ』など、音楽関係の小説やマンガがあります。マンガは館内閲覧です。絵本コーナーには子供のころに読んだ懐かしいものも。

### 企画棚

普段は書庫に入っている本をさまざまなテーマでピックアップし、並べています。また、テレビ番組「らららクラシック」「題名のない音楽会」に関連した本は週替わりで毎週展示しています。

## 2 2F スタディールーム

授業の予習復習のための環境が整っています。

### 授業や就活関係の本

シラバス本、教職、学芸員、外国語、キャリアなど学生生活に密着した図書が並んでいます。シラバス本は、先生が「シラバス」に載せている授業の参考図書です。

### 音楽以外の本

音楽とは関係のない「普通」の文庫本、新書もあります。

## 個人学習席、パソコン席

広々使える一人用の学習席がたくさんあります。パソコン席はレポート提出期間に大活躍です。インターネットの接続と印刷には学内ログインが必要です。

## 3 3F 参考図書フロア

音楽関係の参考図書や語学辞典などがあります。

### レファレンスカウンター

資料の探し方、レポートの書き方、図書館に関するさまざまな質問にお答えします！気軽にご相談ください。

### 静かな学習席

このフロアにはパソコン席はありません。本に囲まれた静かな学習席です。

## 4 4F AVフロア

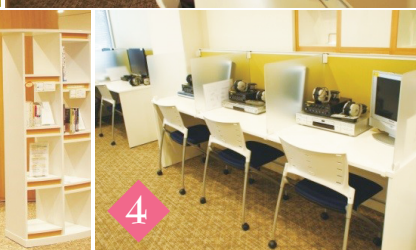
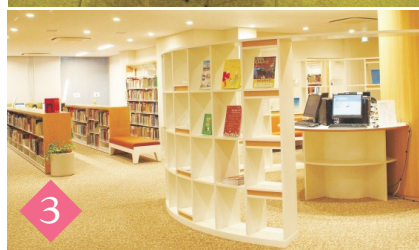
CDやDVDの貸出・返却・視聴ができます。

### 個人視聴卓、グループ視聴室

個人でじっくりCDやDVDを視聴できる席と、3人以上のグループで使える視聴室があります。また、特別な音響設備を備えた大きな視聴室は授業やイベントも行われます。

### くにおんアーカイブ

「大学院オペラ」などの学内演奏会や、「公開レッスン」、「基礎ゼミ」はデジタル化されPCで視聴できます。



## 図書館からのおねがい

### 飲食禁止

ペットボトルや水筒など、しっかり蓋のしまるもののみ所定の場所で飲むことができます。

### 通話禁止

まわりの人の迷惑にならないように、通話は決められた場所でしてください。

### コピーは著作権法を守って

図書館資料をコピーする時は著作権法の範囲内をお願いします。本なら1冊の半分、楽譜は1曲の半分です。必ず複写申込書を記入してください。

### また貸し禁止

自分で借りた楽譜を友達に貸すなど、資料のまた貸しは絶対にしないでください。

【卒論報告】

# デジタルネットワーク時代の新しい 音楽市場戦略と聴取行動の変化

～今日の日本の状況分析と実践報告～

下森也実 (音楽文化教育学科音楽文化教育専攻音楽情報専修 平成29年度卒業)

音楽業界における新ビジネスの調査を中心に、時代と共に変化する音楽の楽しみ方、アーティストの活動等を調査・分析した。

## 今日の音楽産業

2000年代以降、スマートフォンの普及とSNSの登場により、私たちの生活は劇的に変化した。Facebook、Twitterは手軽にネット上でコミュニティを作り、自由に交流、発信できる場として若い世代を中心に人気を博し、更にはメッセージでの交流だけでなく動画を共有できるYouTubeや、動画を生配信できるツイキャスやLINE LIVEなどもネット上での表現の場として注目を集めており、日々新たな若者文化を作り出している。

今日、スマートフォンやSNSがあらゆるものの軸となった状況下で、日本の音楽産業もまた変革期を迎えている。音楽を聴く媒体は所有する音楽ソフトや音楽ダウンロードから、徐々にアクセスするストリーミング配信へと移り変わり、2016年には世界最大の音楽ストリーミング配信サービス「Spotify」が日本にも上陸した。

また、モノに満たされた私たちは、心の豊かさを求め、体験や経験に対して価値を見出し、ここ数年はライブ産業等が盛り上がりを見せている。このように、音楽を享受する者が音楽に対して求めるものは時代と共に変化し、その需要に応えながら音楽業界の形態も徐々に変化を遂げているのだ。

この変化の中で、近年特に産業構造に影響を与え、需要に対して新たな音楽享受を提案しているのがSNSやIT技術を活用したサービスである。今回は、その中でも特に「サブスクリプションサービス」「クラウドファンディング」に焦点を当てて調査をした。



## サブスクリプションサービスとは

サブスクリプションサービスとは、定額制を指す。音楽配信サービスにおいては月額料金を支払う代わりに、そのサービスで扱っている楽曲が全て聴き放題になるという仕組みだ。海外では既に主流のサービスだが、対して日本では未だ定額配信が完全には浸透してはいない。

しかし、日本のレコード産業ではCDが売れず音楽不況と言われる中で、有料音楽配信だけが唯一売上げを伸ばしており、ここ数年でサブスクリプションサービスは有料音楽配信の売上金額で占める比率が最も高いサービスへと成長した。このことから今後、音楽を聴く手段の主流はサブスクリプションサービスにシフトすることが予想される。

## 世界最大手のサービス: Spotify

Spotifyとはアクティブユーザー1億4,000万人、有料会員数6,000万人を誇るストリーミング配信サービスだ。現在61カ国でローンチされており、2016年にはついに日本上陸を果たした。初期は洋楽のラインナップが多かったが、少しずつ邦楽曲のバリエーションが増えているため、日本でも定番の定額配信となる可能性が高い。

そんなSpotifyが世界的に人気な理由は2つある。まず1つは、無料会員でも有料会員と同様の約4,000万曲をフル尺で聴くことができるということだ。無料会員の場合、シャッフル再生になるなど多少操作に制限があるもののタダで音楽を聴けるというのはやはり魅力的だ。

もう1つの理由は、音楽の新規開拓をしてくれる点だ。ユーザーが過去に再生した楽曲から好きなジャンルの楽曲を分析し、好みに近い楽曲でプレイリストを構成し、ユーザーに新たな音楽をお勧めしてくれる。自分では見つけることのできなかった音楽に出会える楽しさが、多くの人々の心を掴んだのだと思う。

## クラウドファンディングとは

クラウドファンディングとは群衆(Crowd)から資金調達(Funding)することを指し、起業家、発明家やクリエイターらがインターネットを介して挑戦したいプロジェクトを公開し、不特定多数の人々からの資金調達が可能にするものだ。

日本でクラウドファンディングが浸透したきっかけは震災の支援であったが、ここ数年音楽業界でも徐々に浸透してきている。芸術の分野では、2017年に東京藝術大学がクラウドファンディングサイトReadyforと提携し11件のプロジェクトを実施し、目標総額であった2,500万円を遥かに上回る3,500万円以上の資金調達が成功させている。

## アーティストとクラウドファンディング

徐々に音楽業界にも浸透しているクラウドファンディングだが、では、クラウドファンディングを実施するメリットはどのようなところにあるのだろうか？

一般的に、音楽クラウドファンディング運営側は3つのメリットを挙げていた。

まず挙げられる最大のメリットは【資金調達】と【プロモーション効果】である。現在の音楽業界はメジャーレーベルですら資金がなく、売れているトップアーティストと、これからアーティスト規模拡大が見込まれる新人に対しては必要な制作費・宣伝費が出資される一方で、その他大多数のアーティストは非常に少ない資金で作品制作、宣伝活動をしなければならない。

要するにメジャー、インディー問わず大半のミュージシャン達は、日々活動資金のやりくりで頭を抱えているのである。そして、資金が不足していればもちろんプロモーション活動にも制限が出てくる。手間とお金をかけて作ったMVやCD等の作品、ライブ

イベントも広く情報発信していく力がなければ、自分の存在を知ってもらう機会も少なくなり、新規のファンを獲得して成長していくことは難しい。

クラウドファンディングはその2つの課題を解決することができる。初期費用0円で企画を実施し、集まった金額を活動資金にあて制作費・宣伝活動費等にあてる。また、告知したい活動とクラウドファンディングの企画を絡めることで、企画自体がSNSで話題になる。

もう1つメリットとして挙げられているのは【特別な体験の提供】である。購入型クラウドファンディングは、参加者が「リターン」と呼ばれる商品または体験を購入して資金を提供する。通常、ライブでの物販やネット通販等では「モノ」しか購入できないが、クラウドファンディングでは「体験」を購入することができるのだ。

アーティストはそれぞれ個性を生かしてファンに楽しんでもらえるような「体験」を提供している。この「体験」は、ファンにとって非常に貴重であり、いつまでも心に残る特別な時間になるだろう。

## おわりに

このように、音楽の楽しみ方は昔に比べ多様化してきている。音楽を聴くだけが音楽享受ではない時代なのだ。ぜひ、色々なサービスから音楽を楽しんでみてほしい。そこには、未開の心躍るようなエンターテインメントがあるかもしれない。



したもり なりみ●1995年生まれ。埼玉県出身。在学中、韓国の大衆音楽や日本の音楽産業を中心に学ぶ。

# 館長室 ◆ ようこそ 28

## 『袖振り合うも多生の縁』

図書館長 古川 聡

朝、5時半過ぎの高速バスに乗って東京駅に向かい、電車を乗り継いで玉川上水まで通っている。冬の間は真っ暗で寒い道を歩かなければならず辛かったが、春の訪れとともに周囲も明るくなり、朝日を浴びながら歩くので心做しか気が軽くなる。こうして早朝の道を数分歩いてバス停に着くと、いつもの顔ぶれが揃っている。互いに名乗る訳でもなく、互いにほんの軽く会釈をして無言でバスが来るのをじっと待つ。この光景が何年も続いている。

私は、進行方向右側の一番後ろ、さらにその通路側の席を確保する。ここからだ車内を一望でき、道路の前方のみならず乗客の様子を観察することが可能になる。バスに乗ると、それぞれが毎日定位置に座り、ある人はカーテンを閉め、ある人は持参したエアークッションを膨らませる。そして私はリクライニングシートを深く倒す。こうしてほぼ全員が再び眠る準備ができた頃、バスは高速道に入っていく。これから1時間半ほどのお休みタイムである。

通学や通勤では、毎日同じ時刻の電車やバスに乗ることが多い。そうすると、顔はわかるものの、何と言う名前か、どこに通っている

のかもわからない人と毎日顔を合わせ、同じ時間と空間を共有する。袖振り合うも多生の縁という諺がある。道を歩く時に袖が触れ合う程度のことであっても、前世からの因縁によるという。バスの中で近くに座ただけであっても、それは偶然ではなく過去からの縁があったことだと考えると、毎日のように同じバスに乗る乗客同士は因縁どころではない。出会うための必然性があるのかも知れない。そう考えながら観察していると不思議な気持ちになる。

大学に入学した皆さんも、同じ電車やバスに乗った乗客と同じである。日本のあちこちで音楽を学び、そして国立音大を目指して集まってきたひとりひとは、たとえ専攻や専修、さらには学年が異なっても、あるいは学生と教職員であっても、何らかの縁があってこそこの出会いである。出会った最初はほんの少しの縁であるかも知れないが、4年間の大学生活を通して縁を絆に代えて、仲間や親友となつてほしいものである。そのような関係ができあがることで、これからの人生が実り多きものになるはずである。いろいろな人と積極的に袖を振り合ってほしいと考えている。

## 雑誌の部屋 19

「雑誌の部屋」は、当館が所蔵しているたくさんの雑誌を、もっとみなさんに手にとっていただけるよう紹介するコーナーです。4月になり図書館も新年度を迎えました。それに伴い今号では、昨年度に新しく加わった雑誌をご紹介します。音楽和雑誌が3誌です。

### 音楽和雑誌

#### 学校音楽教育実践論集 年刊

●P5629……P1807『学校音楽教育研究：日本学校音楽教育研究会紀要』より分冊。日本学校音楽教育実践学会の機関誌。大会で発表された会員の研究論文等を掲載。

#### 日本チェンバロ協会年報 年刊

●P5631……2011年10月に発足した「日本チェンバロ協会」の年報。

#### 日本楽譜出版協会会報 不定期刊

●P5633……1986年に発足した日本で唯一の楽譜出版社の集まりである「日本楽譜出版協会」の会報。





# Parlando

ぱるらんど

## 2017 総目次 294～297

表紙：中田隼斗 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科3年

- 294
- 【巻頭エッセー】読書を通して出会う…林浩子 ●表紙
  - Welcome to our Library ●2～3
  - 【卒論報告】沖縄市のライブハウスとその特質…澤田聖也 ●4～5
  - 館長室へようこそ⑭『時間を大切に』…古川聡 / 雑誌の部屋⑮ ●6
  - 2016年度ぱるらんど総目次 ●7
  - Information ●8
- 295
- 【巻頭エッセー】名著の言葉～完全なるもの～…加納悦子 ●表紙
  - Library Data 2016 ●2～5
  - 館長室へようこそ⑮『最初の合宿』…古川聡 / 雑誌の部屋⑯ ●6
  - 【私のおすすめ】…横屋藍 澤幡優希 ●7
  - Information ●8
- 296
- 【巻頭エッセー】「この音符は何に見えるか？」…金子恵 ●表紙
  - 【Parlando Interview】音楽の授業を通して子どもに笑顔を  
酒井美恵子先生 きき手・小関康幸 ●2～5
  - 館長室へようこそ⑯『業界用語』…古川聡 / 雑誌の部屋⑰ ●6
  - 【私のおすすめ】…根本晃帆 岡本さやか ●7
  - Information ●8
- 297
- 【巻頭エッセー】音楽家の性分…永峰高志 ●表紙
  - 【研究発表会】Parade 100年前の衝撃を再び ●2～3
  - 図書館員のノートから 参考図書のご紹介⑱ウィーン国立歌劇場  
の歴史に触れるーそのレパトリーを知るにはー…樋口真規子 ●4
  - 資料の館⑳音楽家と体についての本…森岡倫子 ●5
  - 館長室へようこそ⑰『日めくりカレンダー』…古川聡 / 雑誌の部屋⑱ ●6
  - 【私のおすすめ】…關奈々子 宇田川もも ●7
  - Information ●8

# Information

## 基礎ゼミ体験実習・図書館

新入生のための基礎ゼミ体験実習が、学科別で4月7日(土)・9日(月)に行われます。この期間は、全館を使っての実習となりますので、図書館はご利用できません。

## 住所変更は？

春は引越しの季節ですね。住所が変わった方は、図書館で住所変更の手続きをお願いします。

## TAC(多摩アカデミックコンソーシアム)を利用しよう

OPACをみても見つからない資料がある時は、あきらめないで、TAC加盟館(国際基督教大学、武蔵野美術大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学)の図書館資料をTACOPACで調べましょう。所蔵していればTLLサービス(図書館間貸出)で取り寄せできます。通常、申込から1週間位で資料が到着します。詳細はメインカウンターでお尋ねください。

## 卒業生の方へ

図書館は卒業してからも登録すれば利用できます。利用の種類や方法については、「図書館ガイド:卒業生利用者用」や図書館ホームページをご覧ください。詳しくはメインカウンターでお尋ねください。

## 督促・予約メール確認のお願い

学内者(学生、大学院生、教職員)には、学内メールアドレス宛に、督促状・予約状を送信しています。返却期限を過ぎた資料を、次の利用者が予約して待っているかもしれません。毎日必ず、学内メールアドレスを確認してください。

## 今年の表紙は？

298号から表紙絵が変わりました。武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科3年 山田絵未さんの作品です。

<作品についてのコメント>

図書館という場所から発想を得て、「夢中」というテーマでこの表紙絵を描きました。読みたいものを読んでいくうちに周りに本の山が出来上がっているが、本を読む手は止まらない。それほどに本の世界に引き込まれているという様子を表現しました。

## 図書館活動報告

### <イベント>

ベーレンライター社ベートーヴェン原典版講座

11月22日(水) 18:00~19:30

ベートーヴェン研究の権威であり、ドイツの楽譜出版社ベーレンライター社で長年ベートーヴェン作品の校訂に携わっているジョナサン・デル・マー氏が初来日、国立音楽大学にも来学し、図書館で講座を開催しました。

### <展示・企画棚>

特別展示『楽譜の世界』

10月23日(月)~30日(月)

皆さん普段は何気なく使っている楽譜の「？」という事で、J.S.バッハ作曲の「インヴェンション」の楽譜を例に様々な楽譜を展示しました。

『Parade 100年前の衝撃を再び』

～音楽情報専修、音楽学コース学生展示～

10月31日(火)~11月18日(土)

「パレード」は今から100年前の1917年にロシアのバレエ団、バレエ・リュスによって初演され、キュビスム風の舞台装置やラグタイムを用いた音楽によって観客に大きな衝撃を与えました。この展示ではパレードの楽譜や個性豊かな芸人たちの写真を展示しました。

『ベートーヴェン 初期印刷譜』

～ベーレンライター社 ベートーヴェン原典版講座関連展示～  
10月31日(火)~11月18日(土)

11月22日に行われたジョナサン・デル・マー氏の講座に関連して、当館が世界に誇る「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」の中から、講演で紹介された「ピアノ協奏曲第1番Op.15」と、図書館の新しいクリアファイルに使用された「交響曲第九番Op.125」と「変奏曲とフーガOp.35(エロイカ変奏曲)」の初版譜を展示しました。

『2018 童謡100年!』

1月15日(月)~3月30日(金)

1918年創刊の児童雑誌『赤い鳥』で「童謡」という言葉が発表されてから、2018年でちょうど100年。鈴木三重吉によって創刊された『赤い鳥』は童謡運動の先駆的な存在でした。この展示では、当館の所蔵する多数の関連資料の中から、『赤い鳥』童謡集(楽譜)と、大空社の復刻シリーズ『叢書日本の童謡』(図書)を展示しました。

### <大学イベント対応@図書館>

12月23日(土)~26日(月) 冬期受験準備講習会

図書館2階ライブラリーホールに受験生のための情報コーナーを設置しました。楽譜展示や視聴スペースを設け、受験生や保護者の方の見学にも対応しました。

### <ガイダンス>

2月7日(水) 古川聡先生、林浩子先生ガイダンス(専門ゼミ3年)

■ 表紙：山田絵未 武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科3年

■ 発行：国立音楽大学附属図書館

■ 編集担当：高橋京子・宮部真砂子

■ 国立音楽大学附属図書館

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp>

E-mail [info\\_lib@kunitachi.ac.jp](mailto:info_lib@kunitachi.ac.jp)